

探検！発見！山口大学☆

— L e t ' s 生物観察！！ —

代表者 堀久瑠美（農学B 3年）
構成員 鎌田英一郎（研究生） 志岐和美（農学B 3年） 納富昭吾（農学B 2年）
宮崎由貴子（教育B 3年） 岩崎智子（教育B 3年）
小林北斗（農学B 2年） 前田篤司（農学B 2年）
岡部一馬（農学B 1年） 岡崎大（農学B 1年）
金谷洋祐（農学B 1年） 国武加那子（農学B 1年）
田中宏美（農学B 1年） 野村美樹（人文B 1年）
石田敬大（理学B 1年） 藤田哲朗（理学B 4年）

1. 概要

山口大学周辺は老若男女が楽しめる憩いの場のような場所が少ない。せっかく山口大学のような自然豊かで、きれいに整備された場所があるのだから、この山口大学こそ老若男女が楽しめる憩いの場になると考える。私達は、山口大学を学生のみならず、地域の方々の憩いの場になるようにしていきたい。その一環として、山口大学内で見られる四季折々の動植物が記載された生物マップを作り、配布する。今回は短期の企画であるので秋・冬の動植物に限定しようと考えているが、春・夏に関しても今後検討していく予定である。この生物マップを見ながら、散歩をして動物や植物を見たり触れ合ったりすることで、人々の心にやすらぎを与えられると考える。また、地域の方にも利用していただくことで、学生と地域の方の距離もつながり、様々なことに協力し合い、よりよい大学にしていけるとも考えている。さらに、この生物マップを作成する過程で山口大学の教員方や外部の方にも写真や専門的な情報の提供などに関して協力してもらう予定であり、この交流を通して学生と教員との距離もより近くなるのではないかと考える。

2. 目的

人々がもっと自然や生物に接し、興味・関心を抱き、心を癒したり、心を豊かにする機会を与えるために、山口大学内の動植物を調べ、秋・冬限定の生物マップを作成し、配布することを目的とする。

3. 社会的背景

現在、日本の社会は情報化社会ともいえるように、パソコンや携帯電話が急速に普及し、自然と離れた生活となっている。この携帯電話の普及や核家族化によるコミュニケーション不足が広がり、テレビやネットのゲーム遊びによって、外遊びや自然との触れ合う機会が減っている。実際、総務省調査によると、2000年3月での日本の携帯普及率は40.4%であるが、2009年3月の時点で84.1%まで上昇している。一方、日本の社会は健康ブームでもある。昼夜を問わずウォーキングやジョギングをしたりと人々の健康に関する意識は非常に高まっている。実際、社団法人日本ウォーキング協会には58ヶ所もの加盟団体が全国に存在している。また、自然あふれる場所を求めたり、日々の生活から離れて憩いの場や癒される場に関心を持つ人も多くいる。

このような社会の状況から、山口大学に生息する動植物に関するマップを作ることで、もっと、人と自然との距離を縮め、心を豊かにし、人々の興味・関心に答えることができるのではないかと考える。また、山口大学周辺には小学校などがあるので、この生物マップが子供達の自由研究などに利用されるようになれば、地域の方々と交流でき、みんなが利用しやすい大学となるのではないかと考える。そのためにも、まずは冬限定の生物マップを作ることを考えている。これは、冬が、春・夏に比べ昆虫や植物が乏しく、全体的に景色が寂しいことから、冬だからこそ見られる生物を特集することで、寒い冬にも自然を楽しんでほしいという思いが込められている。

4. 特色

本プロジェクトの特色は、山口大学に生物マップを作ろうとするところにある。なぜなら、山口大学には生物マップがないからである。以前、おもしろプロジェクトの中で、山口大学の学内マップを作るプロジェクトがあり、作成されている。しかし、そのマップには各学部、学科の名前はあるものの、どのような生き物がいるのかは掲載されていない。山口大学に今までなかった生物マップを作るということは、山口大学にいる動植物への関心を高めることにつながるであろう。また、図書館にあるような専門的な図鑑とは違い、山口大学に生息する見つけやすい動植物を、パンフレット形式の生物マップにすることで、誰でもが簡単に手にでき、初心者にも分かりやすく活用しやすいものができることを期待できる。

5. 計画

【1】生物マップ作成のための動植物調査

調査内容は、山口大学によく見られる、冬の動植物「花」「鳥」「水生生物」「爬虫類」「虫」である。

調査には双眼鏡、デジカメ、図鑑を用い、記録していく。

双眼鏡は、農学部では顕微鏡はあるものの双眼鏡がなく、構成員も持っていない。遠くの鳥や植物を観察するためにも必要となるので、必要経費に挙げている。

細かいところまで調査するが、あくまでも利用する人の目線に立ち、見つけやすく分かりやすいものを目指す。季節により自然の状況が変わるので、短期間調査、長期間調査を行い随時付加修正していけるようにする。調査役割分担として、構成員が二人一組になり、各調査ポイントの動植物の写真撮影、撮影後、図鑑を用いての生物調査を行う。その後、全員で調査報告会を開く。

【2】生物マップ作り（仮マップ作り）

マップ構成を考え、どこにどのような動植物がいるかを配置する。実際の調査で気付くこと、新しい発見もあるので、もれがないよう調査とマップ作りを同時並行でおこなう。構成員はメモを忘れずに調査し、気付いたことは全員で共通理解できるよう定期的集まり、意見交換を行う。この段階では大まかな配置など下地を作成する。下地作成では、調査結果を仮マップに配置し、会議室等で構成員みんなの意見を出し合い生物マップのレイアウトを検討する。

【3】生物マップ作り（本マップ作り※①②）

動植物調査のデータをもとにマップを作成する。また、構成員の意見聞き、イラストやレイアウトなども細かく決めていく。マップ作製ソフトを利用し、イラスト、レイアウトをデータ化する。データ化では山口大学の環境、水路や建物など本格的なイラスト、また、かわいいイラストなどを配置することで子供も大人も楽しめるようなマップを作成する。できたマップは、本プロジェクト代表が印刷会社と交渉し、約 3500 部作成する。刷り上がったマップは、構成員で配布時に計算しやすいよう、500 部ごとに分ける作業を行う。

図表や写真を用いるときは、1 行の幅に合うように大きさを変更し、また図表や写真はその書式設定のレイアウトとして行内を設定して中央揃えとする。写真の縦横比は 3 対 4 であることが望ましい。

【4】作成した生物マップの配布

生物マップを配布できるところを考え、事前に本プロジェクト代表をはじめ、副代表が配布場所を検討、交渉、依頼することで多くの人に読んでもらえるようにする。

今のところ、学生食堂（ポーノ、きらら）、アルク、自主活動室、図書館、共通売店は交渉中である。また、地域の回覧板や直接手渡すことも検討中である。構成員は配布場所が決まり次第、分担して各場所にできたマップを持っていく。

※当初の計画外の出来事

①動植物調査の段階で外部の植物に詳しい先生に調査に同行してもらった。

②マップによく見られるベスト 5 を載せる予定だったが、全体から目立つものなどを選んで載せた。

6. 社会貢献

・山口大学の広報

これまでになかったこの生物マップを作ること、実際に山口大学にどのような動植物がいるのかを広めることができる。また多くの人に利用してもらうことで、学内外を問わず学内の生物の様子を伝えることができる。

・大学の活性化

このマップを配布し、手に取ってもらえることで山口大学にいる動植物について新たな発見があると考える。休憩時間にそのマップをもって、観察に出かけることもできるであろうし、植物を見ながらゆっくりとした時間を持つことができる。そこで、いろいろな会話や触れ合いが生れ、より活気ある一つとなる。

・心の安らぎ

この生物マップを見て、実際に手に取り、自然と触れ合ったり、散歩をしたりすることで、心に安らぎを与え、みんなが楽しく、心豊かに生活できるきっかけとなる。

・食堂の売上向上

マップを見て、地域の方などが山口大学に観察や散歩に出てくることで、食堂を通ることもあり、食堂の活用も増えるのではないかと考える。

7. 完成したマップ



山口大学に生息する動植物



④ □ アオサギ
翼を広げ、日光浴をするときがある。翼を広げると1m60~70cm。じっとたずんでいるときが多い。



④ □ ヒメジオン
似た花に、ハルジオンがある。茎が空洞になっているのがヒメジオン。見分けてみよう。



② □ ショウビタビキ
冬鳥として日本に渡来する。積雪の少ない地方で冬をこす。雌は黄緑色をしている。



④ □ ツチイナゴ
赤褐色の体をしていて、成虫は9月頃から現れる。越冬して翌年の7月頃まで見られる。



④ □ アキアカネ
日本でもっともよく見られるトンボ。6月頃羽化し、秋になると里に下りてくる。



④ □ イヌタデ
田畑や道ばたなどに生育。茎の先に細長い穂をつける。ピンク色をしたきれいな花である。



④ □ ツワブキ
暗地の林ややぶにあり、葉には光沢がある。「つやぶき」が転じて「ツワブキ」の名前になった。



④ □ ノゲシ
茎が太く、黄色の花を多数つける。その後長く白い冠毛を飛ばす。道ばたによく見る越冬草。



④ □ ムラサキシジミ
本州西南部、九州四国に分布している。



④ □ ヒメアカタテハ
日本全国に分布し、幼虫はこぼろ、ハハコグサなどのキク科を食す。



② □ ツマダロヒョウモン
本州西南部や四国九州に分布。幼虫はスミレ類を食す。



④ □ オオイヌノフグリ
早春にコバルト色の花をつける。ヨーロッパ産の帰化植物である。



② □ コウリノナ
黄色い花をつけ、全体に淡い褐色の剛毛が多い。葉っぱがギザギザになっており、特徴的である。



④ □ タンポポ
黄色い花を咲かせ、綿毛のついた種子を作る。生命力が強くてアスファルトの裂け目から生えることもある。



④ □ アメリカザリガニ
北海道をのぞき日本各地で見られる。アメリカでは食用として、養殖もしている。



④ □ ツチガエル
ツチガエルの表面はざらざらしており、皮膚には独特においがあがる。



④ □ ドジョウ
日本全国の平野部の池やみぞに生息している。ひげについている味蕾で食べ物をさがす。



④ □ カエデ
よく使われる「もみじ」はカエデ類の総称で、秋に赤く色づく木の葉のことをいう。



③ □ ホトケノザ
田んぼの畦や畑の中などに生息。春の七草のホトケノザはこれと別のものである。みつが甘い。



④ □ ソヨゴ
葉は楕円形で光沢がある。秋になると果実が赤くつく。実のつく木とつかない木があるので見分けてみよう。

※ 写真の動植物は、左上の番号の所によく見られます。マップと見くらべてみてね。
これ以外にもたくさんの植物、動物、昆虫がいるのでみんなもさがしてみよう。

8. 最後に

今回私はこのプロジェクトを通して多くの方と関わってきました。このプロジェクトを実行するきっかけを与えてくれた深田先生、このプロジェクトに興味を持ち、副代表として最後までプロジェクトを支えてくれた鎌田さん、様々なアドバイスをいただいた自主活動ルームの先生方、情報提供をしてくれた MAPPY の方々、一緒に活動してくれたホタゆにのメンバー、特別講師として協力していただいた江上先生…。

本当に多くの方に支えられたことによって無事にこのプロジェクトを実行することができました。このプロジェクトに関わってくれたすべての人に本当に感謝しています。ありがとうございました！！



ホタゆにのみんなとばしゃりっ☆



山口大学【共育の丘】